

～日本に滞在したことのある5カ国の1200人に聞く～

訪日外国人からみた日本の“食”に関する調査

最もおいしかった日本の料理 1位「寿司」など、あらゆる設問で「寿司」が人気
日本の食事（食事マナー）で印象に残るのは、「食前食後に挨拶をする」
日本の食について驚いたこと・感心したこと、1位「味がおいしい」

I. 日本に滞在したときの“食”の印象

- ◆ 滞在時に食べた日本の料理のうち、初めて食べたもの・最もおいしかったもの 1位「寿司」
おいしかった料理は、ほとんどの国で「寿司」が1位だが、《中国》では「寿司」(7.0%)よりも「うなぎ・うなぎ重」(11.7%)や「刺身」(11.3%)をおいしいと思う人が多い
- ◆ 食事をしたり食材を買ったりした場所は、1位「レストラン」(74.4%)が突出
「屋台」(42.9%)、「コンビニエンスストア」(39.7%)、「スーパーマーケット」(35.3%)、などで食材を購入する人も多い
- ◆ “日本ならではの食材”のうち、初めて食べた食材「松茸」、最もおいしかった食材「生魚」
おいしかった食材 1位は、《アメリカ》《中国》《韓国》は「生魚」(順に 12.0%、15.3%、16.7%)、《イギリス》は「松茸」(14.7%)、《フランス》は「餅」(17.3%)
- ◆ 印象に残っている日本の食事（食事マナー）は、「食前食後に挨拶をする」(50.9%)
「健康に配慮する」(44.1%)、「お箸を使う」(40.8%)、「食器を持ち上げて食べる」(37.8%)、「匂いのものを食べる」(36.8%)なども印象に残る
- ◆ 日本の食について驚いたこと・感心したこと 1位「味がおいしい」(45.7%)
2位「盛り付けが美しい」(42.7%)、3位「メニューが豊富」(41.8%)、4位「バランスが良い」(38.8%)、5位「食材が新鮮」(37.5%)なども評価されている

II. 自国で食べる日本食と日本で食べた日本食

- ◆ 自国の日本食と日本で食べた日本食は、“違った” (86.7%) との回答が大多数
- ◆ 自国の日本食より、日本で食べた日本食のほうが“おいしい” (86.2%)
- ◆ 日本食が“好き” (94.1%) な人は9割を大きく超える
好きな理由は、1位「味が好みだから」(61.6%)、2位「食材が新鮮だから」(49.2%)、3位「健康によいから」(25.8%) など
- ◆ 自国で一番知られていて、最も人気があり、最も食べたい日本の料理は「寿司」、
食品・食材では「魚（マグロ・カツオ・サバ・イワシ）」という結果に

III. 再訪に関する意識

- ◆ また日本に“行きたい” (97.7%) と考えている人が圧倒的多数を占める
- ◆ また日本に行ったら食べたいもの、やはり 1位は「寿司」(58.7%) で不動の人気
いずれの国でも「寿司」がトップだが、2位は《アメリカ》《中国》は「ステーキ・焼肉」、《イギリス》は「天ぷら」と「鍋料理」、《フランス》は「ラーメン」と「焼き鳥」、《韓国》は「ラーメン」と意見が分かれる

◇はじめに◇

農林中央金庫では、『世代をつなぐ食』その実態と意識（2004年）から、毎年継続して食に関する調査を実施しています。本年はこれまでと少し趣向を変えて、この10年以内に日本に滞在したことのある世界5カ国の外国人を対象に、日本の“食”に対する意識と実態を調査しました。調査対象は、アメリカ、イギリス、フランス、中国、韓国の男女1200人で、調査期間は2023年3月20日～3月27日です。

◇調査結果まとめ◇

調査の結果、**料理に関連する設問の大多数において「寿司」が圧倒的な1番人気**という結果となりました。国別の傾向では、設問全体を通じて**ほとんどの項目で《フランス》が高い回答率**を示し、積極的にさまざまな日本の食に触れて親しんでいる様子が見えます。

個別の質問をみていくと、**滞在時に食べた日本の料理は「寿司」（68.3%）が突出して多く、初めて食べた日本の料理も、最もおいしかった日本の料理も1位は「寿司」でした（順に26.5%、19.4%）。**食事をしたり食材を買ったりした場所は、「レストラン」（74.4%）が突出して多いのですが、「屋台」（42.9%）や「コンビニエンスストア」（39.7%）、「スーパーマーケット」（35.3%）なども利用されています。滞在時に食べた“日本ならではの食材”で、最も多かったのは「わさび」（49.0%）でした。このうち初めて食べた食材の1位は「松茸」（19.0%）、最もおいしかった食材の1位は「生魚」（13.9%）となっています。印象に残った日本の食事（食事マナー）は、「食前食後に挨拶をする」（50.9%）が半数を超えています。食について驚いたこと・感心したことは、1位「味がおいしい」（45.7%）、2位「盛り付けが美しい」（42.7%）、3位「メニューが豊富」（41.8%）でした。

日本で食べた日本食は**自国の日本食と“違った”（86.7%）と感じた人が大多数**で、同時に**自国の日本食より“おいしい”と感じている人も大多数（86.2%）**を占めています。日本に来たことがある人ということもあって、**日本食が“好き”（94.1%）な人が9割を超えています。**好きな理由は、1位「味が好みだから」（61.6%）、2位「食材が新鮮だから」（49.2%）、3位「健康によいから」（25.8%）などとなっています。「**自国で知られている日本の料理**」1位は「寿司」（56.3%）、「**自国で最も人気がある日本の料理**」1位も「寿司」（26.0%）、そして「**自国で最も食べたいと思う日本の料理**」1位もやはり「寿司」（16.8%）でした。「**自国で知られている日本の食品・食材**」1位は「魚（マグロ・カツオ・サバ・イワシ）」（48.7%）で、「**自国で最も人気がある日本の食品・食材**」や「**自国で最も食べたいと思う日本の食品・食材**」でも1位でした（順に17.2%、17.4%）。

「**また日本に“行きたい”**」（97.7%）と考える人が大多数を占めています。「**また日本に行ったら何が食べたいか**」も、1位はやはり「寿司」（58.7%）で、不動の人気を示しています。いずれの国でも「寿司」が一番人気ですが、2位は《アメリカ》《中国》は「ステーキ・焼肉」（順に49.0%、38.3%）、《イギリス》は「天ぷら」と「鍋料理（しゃぶしゃぶ、水炊き、あんこう鍋、ちゃんこなど）」（ともに42.0%）、《フランス》は「ラーメン」と「焼き鳥」（ともに43.9%）、《韓国》では「ラーメン」（43.8%）など、国ごとの嗜好の違いがみられました。



以下は、調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ（<https://www.nochubank.or.jp/efforts/research.html>）に掲載の調査報告書をご参照ください。

I. 日本に滞在したときの“食”の印象

1. 滞在時に食べた日本の料理は？ このうち初めて食べた料理は？ また、最もおいしかった料理は？

- ◆ 滞在時に食べた日本の料理は、「寿司」(68.3%)が突出して多い
ほとんどの項目で《フランス》が高い割合を示す、これは設問全体で共通の傾向
- ◆ 初めて食べた日本の料理は、1位が「寿司」(26.5%)、2位「すき焼き」(19.7%)、3位「天ぷら」(19.6%)
- ◆ 最もおいしかった日本の料理は、1位が「寿司」(19.4%)、2位「ステーキ・焼肉」(9.2%)、3位「すき焼き」(8.0%)
《中国》は「寿司」よりも「うなぎ・うなぎ重」や「刺身」を好む人が多い

滞在時に食べた日本の料理は、「寿司」(68.3%)が突出して多く、唯一半数を超えています。以下、「天ぷら」(47.2%)、「ステーキ・焼肉」(46.9%)、「ラーメン」(46.3%)、「うどん・そば」(45.8%)などの順となっています。

国別にみると、ほとんどの項目で《フランス》が高い割合で、《中国》では総じて低い割合です。ちなみに、この後の多くの設問でも、この2国は同様の傾向を示しています。

滞在時に初めて食べた日本の料理も、やはり「寿司」(26.5%)が最多で、以下「すき焼き」(19.7%)、「天ぷら」(19.6%)、「鍋料理(しゃぶしゃぶ、水炊き、あんこう鍋、ちゃんこなど)」(19.3%)、「ステーキ・焼肉」(18.0%)などの順でした。

【滞在時に食べた日本の料理】と比べ、「すき焼き」「鍋料理(しゃぶしゃぶ、水炊き、あんこう鍋、ちゃんこなど)」が上位にあげられています。国別では、やはり《フランス》で高い割合となっています。

最もおいしかった日本の料理も、やはり「寿司」(19.4%)が最も多くなっています。以下は「ステーキ・焼肉」(9.2%)、「すき焼き」(8.0%)、「うなぎ・うなぎ重」(7.4%)、「天ぷら」(6.9%)などの順となっています。

国別でも、やはり「寿司」が最も高い国が多くなっていますが、《中国》は「寿司」(7.0%)はやや少なく、最も多いのは「うなぎ・うなぎ重」(11.7%)となっています。

2. 日本に滞在したとき、どこで食事をしたり食材を買ったりした？

- ◆ 1位は「レストラン」(74.4%)で突出して多いが、「屋台」も4割強(42.9%)
- ◆ 「コンビニエンスストア」(39.7%)、「スーパーマーケット」(35.3%)、「ショッピングモール」(27.6%)、「デパートの地下」(24.8%)などで食材を購入する人も多い
「スーパーマーケット」で買う人は、若い人に多い

日本に滞在したとき、どこで食事をしたり食材を買ったりしたかをみると、「レストラン」(74.4%)をほぼ4人に3人があげて最も多くなっています。以下、「ホテルのレストラン」(43.3%)、「屋台」(42.9%)、「旅館のレストラン」(33.7%)などがあげられています。

「コンビニエンスストア」(39.7%)、「スーパーマーケット」(35.3%)、「ショッピングモール」(27.6%)、「デパートの地下」(24.8%)、「観光地のお土産屋」(21.4%)などで食材を購入する外国人も多いようです。

国別にみると、いずれも「レストラン」が最も多いのですが、特に《フランス》(89.3%)では約9割に達します。また、「ホテルのレストラン」は《アメリカ》(60.7%)と《イギリス》(58.0%)が、「屋台」は《イギリス》(58.7%)と《フランス》(56.7%)が多くなっています。また、《中国》では、「屋台」(19.0%)、「スーパーマーケット」(14.7%)、「ショッピングモール」(14.0%)の割合が他国と比べて低いのが目立ちます。

年代別にみると、「スーパーマーケット」をあげる割合は《29歳以下》の若い人で高くなっています。

3. 滞在時に食べた“日本ならではの食材”^(※)は？

このうち初めて食べた食材は？ 最もおいしかった食材は？

(※) 日本特有の食材、または外国人が珍しいと感じる可能性のある食材を調査選択肢として置いたものです。

- ◆ 滞在時に食べた“日本ならではの食材”は、1位が「わさび」(49.0%)、2位が「生魚」(47.7%)
総じて《フランス》で高く、《中国》で低い割合の項目が多い
- ◆ このうち初めて食べた食材は、1位が「松茸」(19.0%)、2位が「生魚」(18.9%)
《フランス》で高く、《韓国》で低い割合の項目が多い。
- ◆ 最もおいしかった食材は、1位が「生魚」(13.9%)、2位「松茸」(9.3%)、3位「魚卵(イクラ、たらこなど)、白子など」(9.3%)など好みに分かれる
《アメリカ》《中国》《韓国》は1位「生魚」(順に 12.0%、15.3%、16.7%)
《イギリス》は1位「松茸」(14.7%)、《フランス》は1位「餅」(17.3%)

滞在時に食べた“日本ならではの食材”は、「わさび」(49.0%)、「生魚」(47.7%)が半数近くに達し、寿司や刺身を食べた人が多かった結果を裏付けています。以下、「魚卵(イクラ、たらこなど)、白子など」(42.8%)、「松茸」(42.2%)、「生野菜」(42.2%)、「たけのこ」(39.6%)、「海苔、ワカメなど海藻」(38.5%)、「ウニ、タコなどの魚介類」(37.5%)、「餅」(37.4%)、「納豆」(36.6%)、「ごぼう」(35.3%)、「豆腐」(33.9%)、「こんにゃく」(32.7%)、「山菜」(30.3%)などが続きました。

国別にみると、「生魚」「松茸」「たけのこ」など、《フランス》で高い割合となっている項目が目立ちます。一方、《中国》は総じて低めでした。また、《韓国》は「納豆」(50.7%)の割合が高いのが目を引きます。

初めて食べた“日本ならではの食材”としては、「松茸」(19.0%)、「生魚」(18.9%)、「わさび」(17.7%)、「納豆」(17.3%)、「魚卵(イクラ、たらこなど)、白子など」(16.3%)、「たけのこ」(15.7%)、「ごぼう」(15.3%)などの食材があげられています。

国別にみると、《フランス》で高い割合となっている項目が多くなっています。一方、《韓国》では総じて低めで、「あてはまるものはない」(23.0%)の割合が高くなっています。

最もおいしかった食材は、1位の「生魚」(13.9%)でも1割程度とあまり高くなく、以下「松茸」(9.3%)、「魚卵(イクラ、たらこなど)、白子など」(9.3%)、「ウニ、タコなどの魚介類」(9.2%)、「わさび」(8.3%)、「餅」(6.9%)、「ごぼう」(5.8%)などと、好みに分かれる結果となっています。

各国のトップをみても、《アメリカ》《中国》《韓国》は「生魚」(順に 12.0%、15.3%、16.7%)、《イギリス》は「松茸」(14.7%)、《フランス》は「餅」(17.3%)となっています。

4. 日本の食事(食事マナー)で印象に残っているのは？

◆ トップは「食前食後に挨拶をする」(50.9%)で過半数

「健康に配慮する」(44.1%)、「お箸を使う」(40.8%)、
「食器を持ち上げて食べる」(37.8%)、「旬のものを食べる」(36.8%)なども印象に残る
《韓国》では「食器を持ち上げて食べる」(47.3%)が他の国と比べて多い

印象に残った食事(食事マナー)として、「食前食後に挨拶をする」(50.9%)を半数以上の人があげています。以下、「健康に配慮する」(44.1%)、「お箸を使う」(40.8%)、「食器を持ち上げて食べる」(37.8%)、「旬のものを食べる」(36.8%)、「麺類を音を立てて食べる」(29.9%)、「出された料理は残さない」(25.9%)などが印象に残っているようです。

国別で印象が異なることも興味深く、「健康に配慮する」「お箸を使う」「旬のものを食べる」などは《アメリカ》《イギリス》で高い割合ですが、《中国》《韓国》は総じて低い割合です。ただし、《中国》では「旬のものを食べる」(48.3%)が《アメリカ》《イギリス》(順に44.3%、48.7%)並みに高く、また《韓国》では「食器を持ち上げて食べる」(47.3%)が他の国に比べて高いなど、各国の食文化の違いがうかがい知れます。

5. 日本の食について、驚いたこと・感心したことは？

◆ 1位は「味がおいしい」(45.7%)、2位「盛り付けが美しい」(42.7%)、3位「メニューが豊富」(41.8%)、4位「バランスが良い」(38.8%)、5位「食材が新鮮」(37.5%)

総じて《アメリカ》《イギリス》《フランス》で高く、《中国》《韓国》で低い傾向

日本の食で驚いたこと・感心したこととしては、「味がおいしい」(45.7%)、「盛り付けが美しい」(42.7%)、「メニューが豊富」(41.8%)、「バランスが良い」(38.8%)、「食材が新鮮」(37.5%)、「いろいろな味付けがある」(36.8%)、「食材自体がおいしい」(36.3%)など、さまざまなことがあげられています。

国別では、《アメリカ》《イギリス》《フランス》の欧米3国は似たような傾向を示しており、総じて高い割合を示しています。それに対し、《中国》《韓国》のアジア2国は総じて低い割合ですが、《中国》では「メニューが豊富」(45.3%)や「食材自体がおいしい」(41.0%)、《韓国》では「盛り付けが美しい」(50.3%)でポイントが高くなっています。

Ⅱ. 自国で食べる日本食と日本で食べた日本食

6. 自国の日本食と、日本で食べた日本食は違った？

◆ “違った”(86.7%)という回答が大多数を占める

“違った”の割合は《中国》(97.0%)、《フランス》(92.7%)では9割超
《イギリス》(74.0%)、《韓国》(79.0%)では7割台でやや低め

自国で食べた日本食と日本で食べた日本食を比べて、「とても違った」(45.8%)、「やや違った」(40.8%)と感じた人はともに4割台で、合わせて“違った”(86.7%)と感じた人は8割を大きく超えています。それに対し、「ほとんど同じだった」(8.3%)と「まったく同じだった」(0.7%)を合わせた“同じだった”(8.9%)は1割未満となっており、日本で食べる日本食はやはりひと味違うようです。

国別では、“違った(とても+やや)”の割合は、《中国》(97.0%)と《フランス》(92.7%)が9割台と特に高い一方で、《イギリス》(74.0%)と《韓国》(79.0%)は7割台と比較的低めで、特に《韓国》は「とても違った」(15.7%)が極めて少ないのが目を引きます。

7. 自国の日本食と日本で食べた日本食のどちらがおいしい？

◆ 「日本で食べた日本食」(59.5%)、「どちらかという日本で食べた日本食」(26.7%)を合わせた“日本”の日本食のほうがおいしいが大多数(86.2%)を占める

《中国》(98.3%)、《アメリカ》(95.0%)、《イギリス》(93.9%)、《フランス》(87.9%)では9割前後とほぼ全員
一方、《韓国》(60.7%)は6割と比較的低め

自国の日本食と日本で食べた日本食のどちらがおいしいと思ったかでは、「日本で食べた日本食」(59.5%)が半数を超えており、「どちらかという日本で食べた日本食」(26.7%)を合わせると、“日本”(86.2%)がおいしいと感じる人が8割台を占めます。「どちらも同じくらい」(9.3%)が次いで多く、「どちらかという自国で食べた日本食」(3.8%)、「自国で食べた日本食」(0.7%)を合わせた“自国”(4.5%)という回答はわずかです。

国別にみると、“日本”がおいしいとする割合は《中国》(98.3%)、《アメリカ》(95.0%)、《イギリス》(93.9%)では9割台、《フランス》(87.9%)も8割台ですが、《韓国》(60.7%)は6割程度と比較的低めです。また、「日本で食べた日本食」の割合も《韓国》(27.7%)は2割台で、他の国の7割前後と比べて大幅に少なくなっています。

8. 日本食は好き？

◆ 日本食が“好き”(94.1%)な人が9割を超える

“好き”の割合はほとんどの国で9割台だが、《韓国》(83.0%)だけは8割台

◆ 日本食が好きな理由は、1位が「味が好みだから」(61.6%)、2位「食材が新鮮だから」(49.2%)、3位「健康によいから」(25.8%)など

日本食は好きかどうかをみると、「とても好き」が6割強(62.1%)、「まあ好き」が3割強(32.0%)を占め、合わせて“好き(とても+まあ)”(94.1%)の割合は9割を超えます。

国別にみると、ほとんどの国で“好き”の割合は100%近くを占めていますが、《韓国》(83.0%)だけは8割程度と比較的低めです。特に「とても好き」の割合は、《韓国》(32.7%)では3割程度で、他の国の6~7割台と比べて大きな差があります。

日本食が「とても好き」「まあ好き」と回答した人に、日本食が好きな理由を聞いた結果をみると、「味が好みだから」が6割強(61.6%)で最も多く、以下「食材が新鮮だから」(49.2%)、「健康によいから」(25.8%)、「見た目が良いから」(18.7%)、「安全だから」(14.9%)など、さまざまな理由があげられています。

国別にみると、「味が好みだから」が最も多い国が多い中、《中国》では「食材が新鮮だから」(58.8%)が1位となっています。「味が好みだから」は特に《フランス》(75.5%)で高く、《中国》(50.3%)で低めです。また、《韓国》では「味が好みだから」を除くと総じて低い割合の項目が多くなっています。

9. 普段、自国で日本食をどのくらいの頻度で食べる？

◆ 「1週間に一度程度」が2割強(22.8%)で最も多い

個人差は大きいですが各国で日本食が一般的に食べられている様子が見え

自国で日本食を食べる頻度は、「1週間に一度程度」が2割強(22.8%)で最も多くなっています。以下「1カ月に一度程度」(16.2%)、「半月に一度程度」(15.8%)、「4、5日に一度程度」(14.3%)、「2、3日に一度程度」(14.1%)など、人によるバラつきが多い結果となっています。

国別にみると、《イギリス》では「毎日」(15.3%)の割合が高いのが目を引きました。

10. 自国で知られている日本の料理は？自国で最も人気がある日本の料理は？自国で最も食べたい日本の料理は？

- ◆ 自国で知られている日本の料理は、1位が「寿司」(56.3%)、2位「ラーメン」(48.5%)、3位「うどん・そば」(43.7%)、4位「刺身」(42.1%)、5位「天ぷら」(39.8%)
「寿司」は特に《フランス》(74.7%)、《韓国》(78.0%)でよく知られている
《中国》(31.7%)では他の4国よりかなり認知度が低い
- ◆ 自国で最も人気がある日本の料理は、1位「寿司」(26.0%)が突出、2位以下は「刺身」(7.5%)、「ラーメン」(7.1%)、「うどん・そば」(5.7%)など1割未満
「寿司」人気は、特に《フランス》(43.3%)や《韓国》(39.0%)で高い
《中国》(9.7%)では1割未満とそれほど人気がない
- ◆ 自国で最も食べたいと思う日本の料理は、1位はやはり「寿司」(16.8%)。2位以下は「刺身」(8.0%)、「ラーメン」(6.8%)、「うなぎ・うなぎ重」(6.7%)など1割未満
「寿司」は《フランス》(24.7%)や《韓国》(28.7%)で2割台と高い一方、
《イギリス》(6.7%)や《中国》(6.7%)では1割未満と低め

自国で知られている日本の料理は、「寿司」(56.3%)が過半数を占めており、以下「ラーメン」(48.5%)、「うどん・そば」(43.7%)、「刺身」(42.1%)、「天ぷら」(39.8%)、「どんぶりもの(かつ丼、海鮮丼、親子丼、牛丼など)」(39.1%)、「味噌汁」(38.2%)、「カレーライス」(37.9%)などがあげられています。

国別では、「寿司」が最多の国がほとんどで、特に《フランス》(74.7%)、《韓国》(78.0%)で多くなっています。一方、《中国》(31.7%)ではかなり低めで、総じて《中国》では他の国に比べて低い割合の項目が多くなっています。それに対し、《韓国》では、高い割合の項目がほとんどとなっています。

自国で最も人気がある日本の料理は、やはり「寿司」(26.0%)でした。そのほかの項目はいずれも1割以下で、「刺身」(7.5%)、「ラーメン」(7.1%)、「うどん・そば」(5.7%)、「うなぎ・うなぎ重」(5.6%)、「とんかつ」(5.4%)などの順となっています。

国別でも、「寿司」が人気で、特に《フランス》(43.3%)、《韓国》(39.0%)では4割前後に達していますが、《中国》は1割未満(9.7%)と低く、「刺身」(12.7%)のほうが多くなっています。

自国で最も食べたいと思う日本の料理は、やはり「寿司」(16.8%)が最も多いのですが、以下「刺身」(8.0%)、「ラーメン」(6.8%)、「うなぎ・うなぎ重」(6.7%)、「うどん・そば」(5.7%)、「天ぷら」(5.5%)、「鍋料理(しゃぶしゃぶ、水炊き、あんこう鍋、ちゃんこなど)」(5.3%)、「どんぶりもの(かつ丼、海鮮丼、親子丼、牛丼など)」(5.1%)など、人によってさまざまな料理があげられています。

国別にみると、「寿司」をあげる割合は《フランス》(24.7%)、《韓国》(28.7%)で特に高くなっていますが、《イギリス》(6.7%)や《中国》(6.7%)では1割未満と、国ごとの嗜好の違いが比較的大きく出ています。

11. 自国で知られている日本の食品・食材は？最も人気がある食品・食材は？最も食べたいと思う日本の食品・食材は？

- ◆ 自国で知られている日本の食品・食材は、「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(48.7%)、「お酒(日本酒、焼酎など)」(43.3%)、「即席めん」(40.4%)、「牛肉」(40.4%)など
- ◆ 自国で最も人気がある食品・食材は、「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(17.2%)のほか、「お酒(日本酒、焼酎など)」(9.7%)、「即席めん」(9.3%)、「牛肉」(8.8%)など
《中国》《韓国》《イギリス》では「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」が一番人気
《アメリカ》《フランス》では「即席めん」が一番人気
- ◆ 自国で最も食べたいと思う日本の食品・食材は、1位は「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(17.4%)、2位は「牛肉」(9.3%)で、以下「お酒(日本酒、焼酎など)」(8.6%)、「お菓子(スナック、和菓子など)」(8.3%)など
《フランス》では「即席めん」(16.7%)をあげる人が最も多かった

自国で知られている日本の食品・食材としては、「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(48.7%)、「お酒(日本酒、焼酎など)」(43.3%)、「即席めん」(40.4%)、「牛肉」(40.4%)、「お菓子(スナック、和菓子など)」(36.8%)、「ホタテ・カニ」(35.9%)、「米」(34.8%)、「お茶」(33.8%)など、多様な食材があげられています。

国別では、《フランス》が「即席めん」(68.0%)、「牛肉」(58.7%)、「ホタテ・カニ」(50.0%)、「米」(62.7%)、「お茶」(58.7%)など、他の国より突出して多い項目が目立ちます。《韓国》では、「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(60.7%)、「お酒(日本酒、焼酎など)」(61.3%)が特に多いことが目を引きます。

自国で最も人気がある食品・食材も、1位は「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(17.2%)で、以下「お酒(日本酒、焼酎など)」(9.7%)、「即席めん」(9.3%)、「牛肉」(8.8%)、「米」(6.2%)、「お菓子(スナック、和菓子など)」(5.4%)、「ホタテ・カニ」(5.3%)などが人気です。

国別では、「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」は《中国》(22.0%)と《韓国》(28.0%)で2割台、《イギリス》(14.0%)でも最多ですが、《アメリカ》《フランス》では「即席めん」(順に13.0%、18.0%)が1位となっています。

自国で最も食べたいと思う日本の食品・食材は、やはり「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」(17.4%)が最も多いものの、次いで「牛肉」(9.3%)が2番目にあげられており、以下「お酒(日本酒、焼酎など)」(8.6%)、「お菓子(スナック、和菓子など)」(8.3%)、「即席めん」(7.9%)、「ホタテ・カニ」(5.8%)となっています。

国別では、「魚(マグロ・カツオ・サバ・イワシ)」を食べたい人が多い国がほとんどですが、《フランス》だけは「即席めん」(16.7%)が最も多くなっています。

Ⅲ. 再訪に関する意識

12. また日本に行きたい？

◆ また日本に“行きたい”(97.7%)と考える訪日外国人が大多数

「とても行きたい」に限ると《韓国》(51.3%)は半数程度と他の国より低め

また日本に行きたいかを尋ねたところ、「とても行きたい」(70.7%)が7割を超え、「まあ行きたい」(27.0%)を合わせると97.7%と、ほとんど全員が“行きたい”と答えました。

国別でも、“行きたい(とても+まあ)”の割合はいずれも100%に近く、ほとんど差はありませんが、「とても行きたい」に限ると、《韓国》(51.3%)だけは半数程度で、他の国の7割台に比べると低めでした。

年代別にみると、「とても行きたい」の割合は《30代》(76.4%)がピークで、《50歳以上》(52.8%)とは20ポイント以上の差が開いています。

13. また日本に行ったら、何が食べたい？

◆ トップは「寿司」(58.7%)で、やはり不動の人気

いずれの国でも「寿司」がトップだが、2位は《アメリカ》《中国》が「ステーキ・焼肉」、《イギリス》は「天ぷら」「鍋料理」、《フランス》は「ラーメン」「焼き鳥」、《韓国》は「ラーメン」と、国ごとの嗜好の違いがみられる

また日本に行ったら、何が食べたいかでは、「寿司」(58.7%)がやはり最も多く、以下「ステーキ・焼肉」(39.8%)、「天ぷら」(37.5%)、「鍋料理(しゃぶしゃぶ、水炊き、あんこう鍋、ちゃんこなど)」(37.2%)、「ラーメン」(36.4%)、「すき焼き」(33.0%)、「刺身」(32.0%)、「うどん・そば」(31.1%)、「うなぎ・うな重」(30.5%)などが人気となっています。

国別にみると、いずれの国でも「寿司」が一番人気ですが、2位は《アメリカ》《中国》では「ステーキ・焼肉」(順に49.0%、38.3%)、《イギリス》では「天ぷら」と「鍋料理(しゃぶしゃぶ、水炊き、あんこう鍋、ちゃんこなど)」(ともに42.0%)、《フランス》では「ラーメン」と「焼き鳥」(ともに43.9%)、《韓国》では「ラーメン」(43.8%)と、国ごとの嗜好の違いがみられます。

年代別にみると、やはりいずれの年代でも「寿司」が最も多くなっていますが、「ステーキ・焼肉」の割合は若い人に高い傾向がみられます。

IV. 過去の調査

農林中央金庫では、2004年から「食」に関する調査を実施してきました。

本資料は今回の調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ (<https://www.nochubank.or.jp/efforts/research.html>) に掲載されていますので、ご参照ください。

これまでの食に関する調査

発表年月	調査タイトル	調査対象
2022年4月	第4回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2021年4月	第4回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30代から50代の母親
2020年4月	第3回現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2019年4月	昭和世代と平成世代の「食」習慣に関する調査	東京近郊の20代、40代、60代の男女
2018年5月	第3回現代の父親の食生活、意識と実態調査	東京近郊の30代、40代の父親
2017年5月	第3回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2016年5月	第3回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2015年4月	第3回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30代から50代の母親
2014年4月	第2回現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2013年4月	第2回現代の父親の食生活、意識と実態調査	東京近郊の30代、40代の父親
2012年4月	第2回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2011年6月	第2回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2010年4月	第2回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30～50代の母親
2008年3月	現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2007年3月	現代の父親の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の30代、40代の父親
2006年3月	現代高校生の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の高校生
2005年2月	親から継ぐ『食』、育てる『食』	小学校4年生～中学校3年生
2004年2月	『世代をつなぐ食』その実態と意識	子どもを持つ30～59歳の主婦

<本件に関するご照会先>

農林中央金庫

コーポレートデザイン部
広報コミュニケーション班：宮澤、水元

〒100-8155 東京都千代田区大手町 1-2-1
Otemachi One タワー
TEL. 03-6362-7172